

九州 I O T 実装推進ワーキンググループ

(第一回会合概要資料)

(一社) 九州テレコム振興センター (K I A I)





総務省
地域IoT実装推進ロードマップ

実現に向けた総合的実施体制の確立

縦

横

斜め

【KIAI】
IoT本格化に伴う
新たな地域情報化
支援事業の必要性



幅広い
情報共有

地域活動
支援

IoT時代を迎え
九州地域における新たな
情報化支援事業への取り組み

【九州総合通信局】
地域IoT実装推進ロードマップ
推進体制における「斜めの糸」
実施体制の確立

第一次提言を受けた対応(総合的推進体制の確立)

- 地域IoT実装推進タスクフォースにおける提言を受け、地域IoTの実装推進に向けて、“縦”、“横”、“斜め”の総合的な推進体制を確立していく。

縦の糸

【想定参加メンバー】

関係省庁、関係団体等

- 関係省庁、ICT関連推進団体、分野別の業界団体等との連携体制を構築

※既存の連携体制がある場合は、その場を活用。

横の糸

【想定参加メンバー】

地方自治体、民間企業、関係団体等

- 地域IoTの実装に意欲的な自治体と民間企業等とのネットワーク構築を想定
- 全国知事会・全国市長会・全国町村会等と連携して、ロードマップの周知、実装に際しての課題やロードマップ改訂に関する意見交換等を実施

斜めの糸

【想定参加メンバー】

地方自治体、民間企業、関係団体、大学、市民、NPO 等

- 各地域ブロックに設立されている情報通信懇談会等において、
 - ① 地域IoT実装の取組状況の把握、
 - ② 地域特性を踏まえて重点的に推進すべき実装モデルの検討推進
 - ③ 実装推進に向けた課題への対応策、普及策に関する意見交換等を実施

出展:

地域IoT実装の総合的推進体制の確立について(総務省公表資料抜粋)

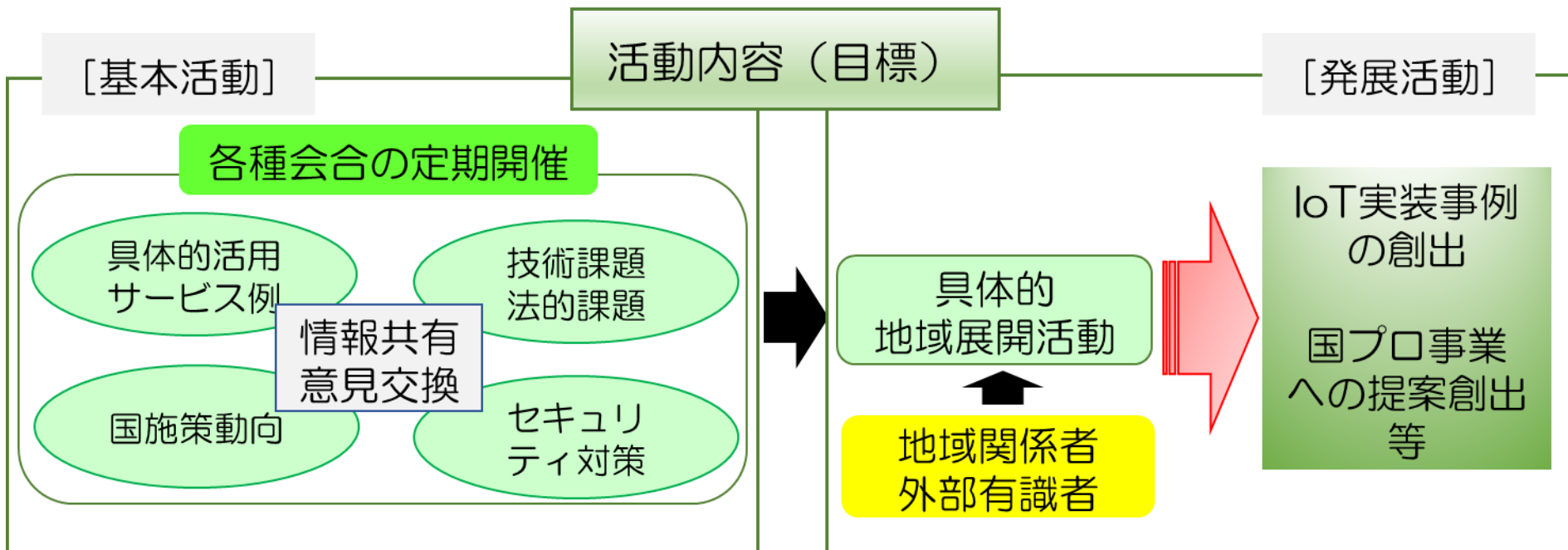
http://www.soumu.go.jp/main_content/000471374.pdf

九州ブロックに関しては総務省九州総合通信局とKIAIが連携して推進

設置趣旨

- IoT実装の取組状況
- IoT実装に向けた様々な課題と対応策
- IoT実装モデル

等に関する情報共有、意見交換等をより一層図り、九州地域におけるIoT実装の更なる進展に寄与させていく活動を産学官民連携で実施



開催日：平成29年6月8日（木）14：00～17：30

主催：（一社）九州テレコム振興センター

場所：城採苑 多目的施設（熊本市中央区二の丸1番1-1号）

参加者：[大学（有識者）] 6名/9名、[国] 12名/5団体、
[自治体] 23名/14団体、[企業] 27名/22団体、[団体] 4名/4団体
参加者合計72名 ※ワーキンググループ発足時参加機関54団体

概要：九州I・o・T実装推進ワーキンググループ設立（概要説明）
自治体におけるI・o・T実装に向けた課題等発表
国におけるI・o・T実装等に関する施策説明、質疑応答・意見交換

※詳細は <https://www.kiai.gr.jp/jigyuu/h29/jigyuu04.html> 参照



座長：九州工業大学学長 尾家 祐二氏

大学

九州工業大学 尾家学長、九州大学 岡村教授、九州工業大学 池永教授、佐賀大学 堀教授、長崎総合科学大学 横山名誉教授、長崎県立大学シボル井校 河又准教授、熊本県立大学 飯村教授、宮崎公立大学 辻教授、鹿児島大学 升屋教授

国

総務省九州総合通信局、厚生労働省九州厚生局、農林水産省九州農政局、経済産業省九州経済産業局、国土交通省九州運輸局

自治体

福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、北九州市、福岡市、熊本市、多久市、佐世保市、長洲町、日南市

企業

西日本電信電話（株）、九州通信ネットワーク（株）、（株）NTTドコモ、KDDI（株）、ソフトバンク（株）、九州電力（株）、西部電気工業（株）、ニシム電子工業（株）、（株）NTTデータ九州、九州旅客鉄道（株）、西日本鉄道（株）、（株）熊本流通情報センター、富士通（株）、日本電気（株）、（株）日立製作所、ユニアデックス（株）、（株）インターネットイニシアティブ、（株）オプティム、Gcomホールディングス（株）、（株）iD、（株）ローカルメディアラボ、（有）アセントコンサルティング

団体

（公財）ハイパーネットワーク社会研究所、（一社）九州経済連合会、NPO法人NEXT熊本、九州商工会議所連合会

第一回会合の概要（アンケート結果）①関心が高い分野

- 九州地方自治体を対象に、ICT/IoTを活用した地域課題解決に、関心の高い分野にアンケート調査を実施。11自治体が回答。
- アンケート結果においても総務省策定した地域IoT分野モデルのいずれかに該当し、とりわけ観光分野には一番関心が高い状況であるものの、各自治体の地域課題に直結した分野に関心をよせている状況。

アンケート結果

項目	計
医療・介護・健康	3
農林水産振興	3
防災	3
観光	5
教育	2
行政の効率化・高度化	3
産業振興	1
情報関連の振興	1
人口減少対策	2
地場産業振興	2
環境	1
エネルギーマネジメント	1
サービス業	1
その他（データ利活用）	1
集計	29

地域IoT実装の分野別モデルとの関連性

教育	農林水産	地域ビジネス	観光	医療・介護・健康	働き方	防災	官民協働	IoT基盤	スマートシティ
				●					
	●								
						●			
			●						
●									
					●		●		
	●	●	●						
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		●							
	●	●	●						
									●
							●	●	●
	●		●						
							●	●	●

- IoT実装に向けた課題は、「財政面」、「費用対効果」、「人材育成」、「体制」、「事業継続性」、「環境面」など様々である。
- 特に、「IoTの具体的な利用イメージ・効果・メリットを示すのが難しい」という回答が多かった。

<財政面>

- ・財政的に厳しい（新たな情報化投資は困難）

<費用対効果>

- ・具体的な活用方法や費用対効果について理解が得られにくい
- ・効果・メリットを明確化するため、IoTの事業化に向けた実証実験による事例づくりが必要。

<人材育成>

- ・データ分析に基づく戦略的な観光戦略を策定していく必要があるが、専門的な人材が不足している。
- ・導入側のニーズと提供側の技術のマッチングが難しい

<体制面>

- ・IoTに関する県の推進体制がないため、事業所管課が個別に対応している。
- ・対象分野が多岐にわたる中、情報部門において、いかにして地域課題を把握し解決策を提案していくかに苦慮している
- ・民間事業者が考える新しいソリューションを前提に、その検証フィールドとして、行政体が手を挙げるやり方が良い。もしくは、行政から課題を提起して、サービス化を目的とした事業者を公募して進めていく方法も有効ではないか。

<事業継続性>

- ・行政主導（補助事業型）では事業継続が難しい（民間事業者主導のビジネスモデル（収益モデル）での展開を期待）
- ・初期（導入）費用に関しては、国の補助等により賄えるが、翌年度以降の運用・維持費の捻出ができず、結果、一定期間後に事業廃止となるケースが多くみられる
- ・行政体もしくは対象者の限られた範囲・認識でのニーズになりがちであり、市場調査等が不十分なため、大半が個別採算型のモデルとなり、民間自立型の収益モデルとならない

<環境整備>

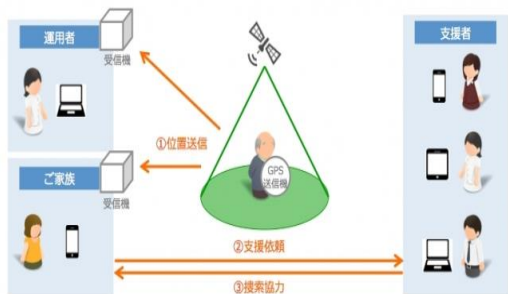
- ・規制改革やルール整備、関連技術の実証を行うテストベッドの確保などの事業環境の整備

- 各自治体（県）はIoT実装に向け各種包括連携協定を結び、実証事業をスタートしつつある。
- 一方で、全てのIoT分野の事例はまだなく、それぞれのプロジェクトを横串さして取り組み事例を共有していくことが必要

	IoT実装状況件名	分野	概要
福岡県	農産物栽培支援システム 高品質な乾ノリ生産支援	農林水産業	システム開発・事業としてH29年度開発・構築し、H30にデータ収集・改良を行ないH31にシステム完成予定
佐賀県	県と（株）カブテックとのAI、IoT活用推進に係る包括協定 など	全て	佐賀における先進的なAI・IoT活用をより強力に推進すると同時に、全産業・行政領域へとAI・IoT活用を拡大していくもの
長崎県	官民協働クラウドによるビジネスモデル等の創出	地域ビジネス、観光	IT関連企業が県のサーバを利用できるようにすること又、観光客の行動などのビッグデータ解析、官民で観光振興などに活用
熊本県	NTT西、熊本県、熊本市でICTを利用した各種取り組みを実施	観光、健康、スマートシティ	H24からICTを活用した各種取り組みを実施中
大分県	大分県版第4次産業革命“OITA4.0”への挑戦	全て	IoTやAI、ロボットなどの先進技術を取り込むことにより、地域課題を解決し、県産業に新たな活力を創造する「OITA4.0」の実現を目指すもの
宮崎県	宮崎県IoT推進ラボ	全て	みやざき新産業創出研究会を中心とした各産業分野にて適したIoT化の方針を研究し、実践していくもの
鹿児島県	IoTサービスの実装事業	介護	LoRaWANを用いた高齢者見守りのトライアルを実施中

介護

高齢者見守り (鹿児島県肝付)

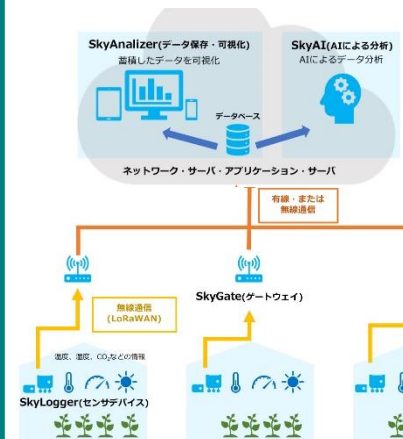


LPWAを活用した認知症高齢者徘徊模擬訓練

(出典: 株式会社 LiveRidge HP)

農林水産業

農産物栽培支援システム (福岡県)



ビニールハウス内にIoTデバイスを設置してクラウドでデータ収集
取得したデータをAIにより解析することで好適な栽培管理モデルを構築 (実証)

(出典: (株) スカイディスクHP)

観光

スマートエアポート (熊本県、市)

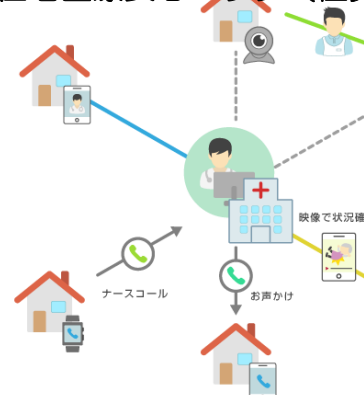


バスから電車への乗り換え情報、観光情報、イベント情報なども表示し、空港から熊本県内外への目的地へスムーズに移動できるように情報を提供

(出典: スマートひかりタウン熊本 HP)

医療

在宅医療安心パック (佐賀県)



佐賀県とオプティムの包括協定の一環として、AI・IoT技術を用いて、在宅医療を支援するサービス (実証実験)

(出典: オプティム HP)

- IoTの具体的利用イメージ・効果・メリットを示すのが難しいとあり、それが出来ないと予算確保も難しいということで苦労されているようである。
- このワーキンググループで、IoT活用の効果が見えれば、それをシェアして推進するのではないか。
- 人材的に厳しい、推進役の確保といった課題も多く見うけられる。
- テクニカルな部分、将来のビジネスモデルに持っていく部分、実際の運用の仕組みを並行して考えて行かないといけない
- IoTの取り組みはまだ進んでおらず、IoTの知見が十分でないのが課題と認識している。
- 結果的に長続きしなかった要因は、システム運営に関し、受益者負担モデルをはじめ、最終的な収益モデルが出来なかった点も大きい。
- KPIは、マネージメントツールとしてはいいが、細かに求められすぎると厳しい。ある程度柔軟な対応ができる素地を残しておいていただけるようにできれば、各自治体もトライしやすいと思う。
- 国家戦略としてIoT実装についても中期ビジョンを持って、デバイスや関連機器のコストパフォーマンス、設定の仕方に知恵を出していただいて議論頂ければ、イノベーションに繋がると思う。
- 実証が終わった後に続かないという問題がある。実証が終わり、独自に運営していこうとすると、従来業務に付加されることとなり、困難となる。そういう意味で、この「実装」の中で、仕組みを考えていかないといけない。
- 農業分野において、農家でデータをセンシングしないといけないが、小規模農家ではその辺の投資は難しい。規模の大きな農家はまだまだ九州では少ないので、小規模農家、若手農家がチャレンジできる仕組みづくりも同時に考えて行かないと本当の意味での「実装」は難しいと思う。
- IoTの実装には分野を超える必要があり、そのためにはインテグレート、コンサルタントが重要である。KIAIなら今回のワーキングで色々な枠を超えてやっていけると期待する。
- 方向性は、それぞれのプロジェクトを横ぐしで、どうつないでいくか、共通の九州の基盤を作っていくのが一つの方向性だと感じている。

